

浮ヶ谷孝夫 (指揮者)

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アーレンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはボメラニアン・フィル(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニア・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年に「ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト」日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共演し、多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。

東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、 Brahms、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的の参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フローレス、ヴィットリオ・グリゴーロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲の夕べ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&ブラシド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

井上愛悠奈 (ヴァイオリン)

'18 第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール中学生の部第2位
'19 第25回KOBE国際コンクール中学生の部最優秀賞、兵庫県教育委員会賞
'20 第74回全日本学生音楽コンクール大阪大会中学生の部第3位
第24回日本演奏家コンクール高校生の部全国第1位
'22 第1回 ザハール・ブロン ヴァイオリン・マスタークラスin宗次ホール受講生
'23 第44回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール高校2年の部第2位(1位なし)
'23 4月ドイツにてブランデンブルク国立管弦楽団とソリストとして共演 メンデルスゾーンヴァイオリンコンチェルトを演奏する
'23 8月受賞者コンサートに出演、東京フィルハーモニー交響楽団と共に演
'23年度 関西を拠点に活動する、スーパーキッズオーケストラ第20代コンサートミストレス
現在、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校3年在学
これまでに玉井菜採、小栗まち絵各氏に師事

隠岐彩夏 (ソプラノ)

東京藝術大学大学院博士課程修了。R.シューマンの歌曲を研究し博士号取得。イタリア、ウィーン等で研鑽を積んだのち、渡米。日本音楽コンクール第1位、岩谷賞、E.ナカミチ賞受賞。三菱地所賞、東奥文化選奨受賞。これまでに、ヘンデル「メサイア」、モーツアルト及びフォーレ「レクイエム」、ドヴォルザーク「スター・バト・マーテル」等宗教曲のソリストを数多く務める。オペラでは『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラで出演。また歌曲を自身のライヴワークとし毎年リサイタルを開催。NHK Eテレ「クラシックTV」等メディアや、「ディズニー・オン・クラシック」にも出演し幅広く活躍中。Vn.矢部達哉氏、Pf.横山幸雄氏との共演によるデビューアルバム《愛しの夜》をリリース。二期会会員。

辻友恵子 (アルト)

東京学芸大学在籍後、東京藝術大学声楽科卒業、同大学大学院修了。東京ミュージック＆メディアアーツ尚美ディプロマコース修了。第20回日本声楽コンクール入選。東京二期会本公演『ウリッセの帰還』『魔笛』『フィガロの結婚』『リゴレット』『イル・トロヴァトーレ』に出演。神奈川県民ホール、びわ湖ホール共催『ワルキューレ』に出演。調布市民オペラ、杉並区民オペラ、荒川区民オペラ、オペラ彩ほか、市民オペラにて『カルメン』『アイーダ』『蝶々夫人』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『アドリ安娜・ルクヴルール』『ヘンゼルとグレーテル』等、メゾソプラノの主要役で数多く出演している。2015年～2022年文化庁巡回公演《子供の為の文化芸術育成事業》にて、池辺晋一郎『てかがみ』、林光『おこんじょうり』に出演。2022年青島広志『うりこひめの夜』の初演に参加。邦人才オペラ作品にも活躍の場を広げている。一般社団法人オーラジオステン運営委員。二期会会員。

田中豊輝 (テノール、合唱指揮)

国立音楽大学大学院修了。声楽を内木邦子、佐藤峰子、眞嶋美彌各氏に、合唱指揮を辻正行氏に、合唱指導を今井邦夫氏に師事。モーツアルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのテノールソロを務める。'16年、'18年ドイツに招かれ浮ヶ谷孝夫指揮のブランデンブルグ国立管弦楽団と共演。現在、11の合唱団の指導者、グリーンウッドハーモニーなどのボイストレーナーとして活動。NHKラジオ高校講座音楽にて長く歌い手を務めている。

田中雅史 (バリトン)

岩手大学教育学部芸術文化課程卒業。東京藝術大学声楽科を経て、東京藝術大学大学院修士課程声楽専攻を首席修了。同時に大学院アカンサス音楽賞、小川尚子賞海外派遣奨学生を受賞。2020、2021年度公益財団法人野村学芸財団奨学生。大学院在学時に東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサート、藝大フィルハーモニア管弦楽団合唱定期演奏会(藝大定期第413回)にソリストとして出演し、藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。第34回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第1位、中田喜直賞、木下記念賞(金)受賞。これまでにL.v.ベートーヴェン《第九》、G.F.ヘンデル《メサイア》、J.ブラームス《ドイツ・レクイエム》、J.S.バッハ《宗教カンタータ》等でソリストを務める。声楽を西野真史、佐々木正利、川上洋司、Nicola Rossi Giordano、永井和子の各氏に師事。

